

音楽科部会

研究主題 豊かな感性をもち、喜んで音楽活動に取り組もうとする子どもを育てる指導

1 主題について

今年度は、昨年度の課題であった「表現と鑑賞との関連の図り方」について、更に研究を深めたいと考え、鑑賞したことを表現活動に生かす「リズム伴奏づくり」の授業について研修した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	8月22日 9月10日	第1回指導案検討会 第2回指導案検討会 総合研究会の指導案について検討
10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（早口小学校）	12月9日	授業交流会（南小学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日（木） ・会 場 早口小学校
- ・題材名 6年「世界の音楽カーニバル」 ・授業者 津谷 美穂子

① 授業者から

- ・「ラバースコンチェルト」でもリズム伴奏作りをしたが、音符を書く活動が児童には負担が大きかった。そこで今回はリズムカードを組み合わせる方法で、リズム伴奏作りに取り組ませた。
- ・「世界の音楽」と「日本の音楽」の鑑賞を続けて行った。くり返して聞いたり比べて聞いたりすることで音楽の仕組みに気づいたりイメージを広げて聞いたりする力がつくと感じた。
- ・本時の一番のねらいは、自分の思いをもってリズムを作るということであった。子どもの実態をふまえ、児童が工夫する内容は「強弱」と「リズムの組み合わせ」にしぼった。
- ・グループ活動は見とりが難しかった。また、効果的な声かけについてが課題である。



【どのリズムがイメージに合うかな】

② 協 議

- ・子どもたちが45分集中してめあてに向かっていった。日ごろの学級経営のすばらしさや前時までの充実した活動がうかがわれた。次時の活動へも意欲的であった。
- ・導入のリズム遊びが後の展開につながっていたので、授業の流れがスムーズだった。
- ・リズムカード、拡大楽譜、音の設計図など、自分のイメージにあったリズム伴奏を作らせるための手立てが充実していた。
- ・配置やラジカセの準備などグループ活動がスムーズにいく配慮があった。
- ・リズム遊びは1小節でなく連続して行くと、拍の感覚が身につく。
- ・グループでの話し合いやカードに書く活動など音楽活動と言語活動が学習を深めていた。
- ・1、2段目は同じで、3段目が違うという楽譜の仕組みを試行錯誤しながらみつけたグループもあった。ここで、音楽の形式を学ばせたい。
- ・拡大楽譜には歌詞を入れず、強弱記号を入れた方がいいのではないか。
- ・同じリズムでも強弱によって、受ける感じが違うことにも気付かせたい。

- (2) テーマ研究《各学校の実践発表》
- ・リコーダーの学習に生かせる「指番号カード」の紹介。リコーダーが苦手な子には「指番号譜」を持たせる。「リコーダー特訓コース」で教師と一緒に練習するなど、自分にあった方法で全員がリコーダーを吹けるようにする。
 - ・イメージワードを掲示して、心に浮かんだイメージを言語化する。言語化することで音色、リズム、音の響き、音の組み合わせなどの要素に気付かせる。
 - ・リコーダーアンサンブルをすることで、聴き合って演奏したり友だちの音色に耳を傾けたりすることができるようにする。
 - ・リズムカードを活用してリズム遊びや身体表現をさせ、子どもに楽しみながら音楽の力をつけていく。
- (3) 指導助言（田中 覚 指導主事）
- ① 授業について
- ・温かい人間関係の中、男女が協力的で1時間たっぷり音楽にひたっていた。表情も豊かで質の高い授業であった。満足して活動を終わられ、次時への期待感も感じられた。
 - ・前時まで、音楽を形づくっている要素を聴き取る活動やよさ、おもしろさを感じ取る活動がよくなされていたので、本時では工夫してリズム伴奏づくりをしたいという気持ちになっていた。
 - ・リズム譜、音の設計図、拍を入れた旋律のCD、拡大楽譜、など課題解決につながる手立てがあり、そのことが子どもたちの安心感につながっていた。
 - ・導入のリズム遊びが効果的であった。リズム遊びが日常の授業において継続して行われていたことが本時の授業に生かされた。リズムを正確にたたき、拍感をもってたたかせることが大事である。速度を合わせるためにメトロノームを見える位置に置くなどの工夫があるとよい。
 - ・教師の言葉がけや問いかけが子どもたちに表現する根拠をもたせていた。教師の問いかけに子どもたちは音楽用語を使って発表していた。
 - ・全員がゴールを見据えて活動できるように、前時まで「こんなふうにしたい。」という工夫の具体像をもたせておくとうい。
 - ・自分たちの音に集中しながら、他のグループのよさも感じられるような場の工夫が必要。
 - ・学習指導要領の指導事項をよく読んで、そのために必要な題材や教材を選ぶことが大切である。
- ② リズム伴奏づくりについて
- ・「〔共通事項〕アを聴き取り、その働きが生み出すおもしろさを感じ取る。」「それを基にリズム伴奏を工夫し、どのように表現するかについて自分なりの思いや意図をもつ」「聴き取ったことと感じ取ったことを関連付け、根拠を明らかにしながら、リズム伴奏をつくる」という一連の流れを指導計画に盛り込む。
 - ・表現や鑑賞の学習の質を高めるために言語活動を取り入れていく。「なぜそう感じたか。」と教師が子どもに問うことで、その根拠となる音楽的な特徴を捉えさせ、聴き取り・感じ取りの力が高められていく。

4 成果と課題

- (1) 成果
- ・道具の準備や教材の工夫など、学習意欲を高める手立てが充実していたことにより、子どもたちが主体的に学習に向かうことができている。「リズム伴奏づくり」では、聴き取ったことや感じ取ったことを基に工夫することが大切であることを共通理解した。
- (2) 課題
- ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受させるための手立てや、思いや意図をもち創意工夫して音楽表現させるための手立て。